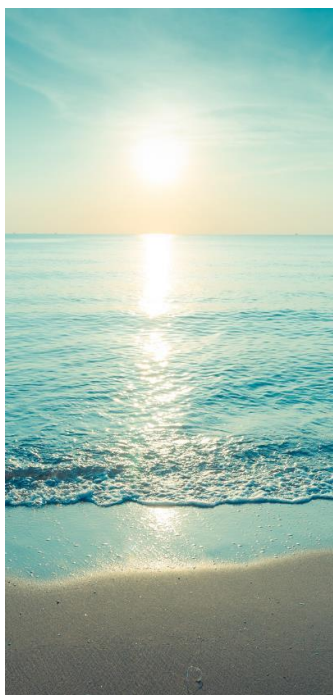




2027年3月期 第1四半期 決算説明会

2026年8月5日
BIPROGY株式会社



2027年3月期第1四半期 決算概要

2027年3月期第1四半期 業績概要

- ✓ システムサービスは堅調に推移し収益性も向上
- ✓ 製品販売は、社内基幹システム刷新に伴うBIPROGYとユニアデックスのシステム統合において移行データの不整合等により購買業務の遅延が生じ、第1四半期の売上計上予定60億円程度が期ずれしたことから減収減益
- ✓ 受注高、受注残高は、AI関連大型案件の獲得もあり順調に積み上がり、前年同期比で大幅増加

2027年3月期 通期業績予想

- ✓ 顧客企業のIT投資需要は引き続き堅調に推移
- ✓ 通期業績予想は変更なし

今井でございます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

まずはじめに、2027年3月期第1四半期の決算概要についてご説明します。

2027年3月期第1四半期は、システムサービスが堅調に推移し、収益性も改善しております。

一方で、製品販売を中心として、社内基幹システム刷新に伴うBIPROGYとユニアデックスのシステム統合において、移行データの不整合により、購買業務の処理に遅延が生じ、第1四半期に計上予定であった売上60億円程度が第2四半期以降に期ずれし、減収減益となりました。

受注高、受注残高については、AI関連のハードウェア販売の大型案件を獲得する等、ハードウェアやアウトソーシングを中心に順調に積み上がり、前年同期比で大幅な増加となりました。

受注環境に変化は無く、顧客企業のIT投資需要は強い状況と認識しております。
そのため、2027年3月期の通期業績予想は期初予想から変更ございません。

1 2027年3月期第1四半期 業績

2 2027年3月期 業績予想

参考データ

それでは、2027年3月期第1四半期の業績数値についてご説明します。

2027年3月期第1四半期 連結経営成績

【連結経営成績】

(単位:億円)

	2026年3月期 1Q	2027年3月期 1Q	前年同期比	
売上収益	968	915	△54	(△5.6%)
売上総利益	238	244	+6	(+2.5%)
販管費	△159	△177	△18	(+11.0%)
持分法による投資損益/その他の収益・費用	7	1	△6	
営業利益	86	68	△18	(△20.4%)
(営業利益率)	(8.8%)	(7.5%)	(△1.4pt)	
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	58	45	△13	(△23.1%)
調整後営業利益*	78	67	△12	(△14.7%)
(調整後営業利益率)	(8.1%)	(7.3%)	(△0.8pt)	
受注高	953	1,199	+246	(+25.8%)
受注残高	2,883	3,304	+421	(+14.6%)
うち、年度内売上予定	1,376	1,777	+401	(+29.2%)

*調整後営業利益 = 売上収益 - 売上原価 - 販売費及び一般管理費

(売上収益)

アウトソーシングやシステムサービスが増収となったものの製品販売が減収。社内基幹システム刷新の影響に伴う第1四半期の売上計上の期ずれは60億円程度

(売上総利益)

アウトソーシングやシステムサービスの収益性改善により増益

(販管費)

社内システム費の増加等により増加

(持分法投資損益/その他の収益・費用)

前年同期に持分法適用会社において一過性の収益を計上した影響により減少

(営業利益)

減収に伴い販管費の増加を吸収しきれず減益

(受注高・受注残高)

ハードウェア販売の大型案件を受注。アウトソーシングの長期案件の獲得があり、受注高、受注残高は大幅増加

顧客企業のIT投資意欲は旺盛な状況が継続しているものの、製品販売の減少が影響し、売上収益は、前年同期比54億円減少の915億円となりました。

利益面では、減収に伴い販管費の増加を吸収しきれず、営業利益は前年同期比18億円減益の68億円、調整後営業利益は12億円減益の67億円となりました。また、当期利益は、営業減益に伴い13億円減益の45億円となりました。

受注高は、ハードウェア販売の大型案件や、アウトソーシングの長期案件の獲得等があったことから、前年同期比で246億円増加いたしました。受注残高も年度内売上予定分が前年同期比401億円増加しており、順調に積み上がっております。

2027年3月期第1四半期 セグメント別売上／利益の状況

【セグメント別 売上収益／売上総利益(利益率)】

(単位:億円)

	2026年3月期 1Q		2027年3月期 1Q		前年同期比	
	売上収益	売上総利益 (利益率)	売上収益	売上総利益 (利益率)	売上収益	売上総利益 (利益率)
システムサービス	301	106 (35.3%)	312	114 (36.7%)	+11 (+3.6%)	+8 (+7.8%) (+1.4pt)
サポートサービス	142	45 (31.4%)	139	39 (28.4%)	△3 (△2.3%)	△5 (△11.7%) (△3.0pt)
アウトソーシング	232	42 (18.1%)	288	74 (25.6%)	+57 (+24.5%)	+32 (+76.0%) (+7.5pt)
その他サービス	28	7 (25.0%)	24	5 (20.5%)	△4 (△14.9%)	△2 (△30.2%) (△4.5pt)
ソフトウェア	116	11 (9.2%)	88	2 (1.9%)	△28 (△24.0%)	△9 (△84.6%) (△7.3pt)
ハードウェア	150	27 (18.3%)	64	10 (15.1%)	△86 (△57.5%)	△18 (△65.0%) (△3.2pt)
合計	968	238 (24.6%)	915	244 (26.7%)	△54 (△5.6%)	+6 (+2.5%) (+2.1pt)

(システムサービス)

金融機関や小売業など、各業態でのシステム刷新案件が堅調に推移し、増収増益

(サポートサービス)

製品販売の減少に伴い減収減益

(アウトソーシング)

カタリナマーケティングジャパンの連結取り込みや中小型案件の積み上がり、運用コスト見直しによる収益性改善等により増収増益

(ソフトウェア／ハードウェア)

前年同期に官公庁向け大型案件を計上した影響や、社内基幹システム刷新に伴う売上計上の期ずれ等により減収減益

続きまして、セグメント別の売上収益、売上総利益の状況についてご説明します。

システムサービスは、金融機関や小売業など、各業態でのシステム刷新案件が堅調に推移し、前年同期比で11億円の増収、8億円の増益となりました。

アウトソーシングは、カタリナマーケティングジャパンのグループインに伴う影響のほか、中小型案件の積み上がりや運用コスト見直しによる収益性改善等により、前年同期比で57億円の増収、32億円の増益となりました。

ソフトウェアおよびハードウェアは、前年同期に官公庁向け大型案件を計上した影響や、社内基幹システム刷新に伴い、第1四半期に計上予定であった売上が第2四半期以降に期ずれし、減収減益となりました。

2027年3月期第1四半期 セグメント別受注高／受注残高の状況

【セグメント別 受注高】

(単位:億円)

	2026年3月期 1Q	2027年3月期 1Q	前年同期比
システムサービス	340	361	+21 (+6.3%)
サポートサービス	142	111	△31 (△22.0%)
アウトソーシング	169	235	+66 (+39.4%)
その他サービス	38	40	+2 (+6.1%)
ソフトウェア	96	126	+30 (+31.8%)
ハードウェア	169	326	+157 (+92.9%)
合計	953	1,199	+246 (+25.8%)

(システムサービス)

金融機関や小売業向け案件等、システム刷新需要が継続し受注高、受注残高ともに増加

(サポートサービス)

前年同期に研究機関向けの大型案件を受注した影響により受注高は減少

(アウトソーシング)

金融機関向け長期案件、カタリナマーケティングジャパンの連結取り込み等により受注高、受注残高ともに増加

(ソフトウェア)

電力会社向け他社ソフトウェア販売案件等により増加

(ハードウェア)

サービス業向け大規模GPUインフラ基盤の構築案件受注により受注高、受注残高ともに増加。AI関連やネットワーク関連のインフラ増強需要は引き続き堅調に推移

【セグメント別 受注残高】

(単位:億円)

	2026年3月期 1Q末		2027年3月期 1Q末		前年同期末比	
	受注残高	うち、年度内 売上予定	受注残高	うち、年度内 売上予定	受注残高	うち、年度内売上予定
システムサービス	420	374	473	433	+53 (+12.6%)	+59 (+15.7%)
サポートサービス	555	295	589	313	+34 (+6.2%)	+18 (+6.1%)
アウトソーシング	1,573	427	1,630	490	+58 (+3.7%)	+63 (+14.8%)
その他サービス	72	48	80	67	+8 (+10.5%)	+18 (+37.9%)
ソフトウェア	53	45	107	87	+54 (+100.4%)	+42 (+92.3%)
ハードウェア	210	186	424	387	+215 (+102.3%)	+201 (+108.2%)
合計	2,883	1,376	3,304	1,777	+421 (+14.6%)	+401 (+29.2%)



Foresight in sight

続きまして、セグメント別の受注高、受注残高についてご説明します。

AI関連やネットワーク関連のインフラ増強需要が引き続き堅調であり、サービス業向けGPUインフラ基盤の大型案件を獲得する等、ハードウェアの受注が堅調に推移しております。また、アウトソーシングにおける金融機関向け長期案件やカタリナマーケティングジャパンのグループインに伴う影響等により、受注高は前年同期比246億円の増加となりました。

受注残高は、ハードウェアやアウトソーシングを中心に前年同期末比で421億円増加しました。年度内売上予定分も順調に積み上がり、前年同期末比で401億円と大幅に増加しております。

2027年3月期第1四半期 注力領域（コア事業）の進捗

【注力領域(コア事業) 売上収益／営業利益(利益率)】

(単位:億円)												
	2026年3月期 1Q		2027年3月期 1Q		前年同期比		2026年3月期 通期		2027年3月期 通期目標		前期比	
	売上収益	営業利益 (利益率)	売上収益	営業利益 (利益率)	売上収益	営業利益 (利益率)	売上収益	営業利益 (利益率)	売上収益	営業利益 (利益率)	売上収益	営業利益 (利益率)
ファイナンシャル	117	12 (10.4%)	115	10 (8.5%)	Δ2 (Δ1.5%)	Δ2 (Δ19.7%) (Δ1.9pt)	508	54 (10.7%)	510	43 (8.5%)	+2 (+0.5%)	Δ11 (Δ20.0%) (Δ2.2pt)
リテール	54	3 (5.4%)	100	16 (15.5%)	+46 (+84.4%)	+13 (+429.0%) (+10.1pt)	298	15 (5.2%)	450	45 (10.0%)	+152 (+50.9%)	+30 (+191.2%) (+4.8pt)
エネルギー	52	1 (2.1%)	64	0 (0.7%)	+12 (+22.4%)	Δ1 (Δ57.6%) (Δ1.3pt)	200	20 (10.2%)	210	28 (13.4%)	+10 (+5.1%)	+8 (+38.0%) (+3.2pt)
モビリティ	73	6 (8.5%)	66	8 (12.9%)	Δ7 (Δ9.6%)	+2 (+36.3%) (+4.3pt)	326	40 (12.4%)	330	43 (13.1%)	+4 (+1.1%)	+3 (+7.6%) (+0.8pt)
OTインフラ	40	6 (14.9%)	29	4 (14.6%)	Δ11 (Δ27.8%)	Δ2 (Δ29.0%) (Δ0.2pt)	217	20 (9.0%)	225	22 (9.8%)	+8 (+3.6%)	+3 (+12.8%) (+0.8pt)
合計	336	28 (8.4%)	373	38 (10.3%)	+38 (+11.2%)	+10 (+35.7%) (+1.9pt)	1,549	150 (9.7%)	1,725	182 (10.6%)	+176 (+11.3%)	+32 (+21.4%) (+0.9pt)

- ファイナンシャル: 開発案件の反動減の影響を受けた一方、勘定系システム更改案件が順調に進捗すると共に、バンキングアプリ等のフロント系サービスの採用が拡大。国内初、外国送金における取引リスクをAIで可視化するSaaS型商流管理サービス「Trabotic(トラボティック)」を2026年12月より提供開始予定
- リテール: スーパーマーケット向けの大規模マーチャンダイジング基幹システム刷新案件やカタリナマーケティングジャパンの業績反映、および、前期より実施のアウトソーシングサービスにおける運用コスト見直しが順調に進捗
- エネルギー: 低採算の製品販売の影響を受けた一方、電力会社向けシステム刷新案件が順調に進捗。系統用蓄電池を保有・運用する子会社「BIPROGY Energy Storage合同会社」を2026年6月に設立し、アグリゲーション事業*に着手
- モビリティ: 低採算の製品販売案件が前年同期比で減少した影響があるものの、航空・鉄道は堅調。北海道旅客鉄道株式会社とIoTを活用した「踏切遠隔監視システム」の実証実験を開始。Turing株式会社への出資を通し、中長期視点での自動運転の社会実装の加速を目指す
- OTインフラ: 製品販売における売上の期ずれの影響を受けるも、OTネットワークおよびセキュリティ領域の需要は堅調に推移

続きまして、経営方針で定めた注力領域の状況についてご説明します。
経営方針では、現在の収益源である「コア事業」と、新しい収益の柱となる「成長事業」の2つの事業戦略を推進しております。

コア事業では、優良な顧客基盤と業務知見を活かせる5つの注力領域を設定しており、注力領域に経営資源を集中し収益性を高めていくことを目指しています。

ファイナンシャルでは、開発案件の反動減の影響があったものの、勘定系システム更改案件が順調に進捗すると共に、バンキングアプリ等のフロント系サービスの採用が拡大しています。また、外国送金における取引リスクをAIで可視化する国内初のSaaS型商流管理サービス「Trabotic(トラボティック)」を2026年12月より提供開始します。

リテールでは、カタリナマーケティングジャパンの業績を反映したことに加え、大規模マーチャンダイジング基幹システムの新規案件や、前期より実施しているアウトソーシングサービスの運用コスト見直しも順調に進捗しました。

エネルギーでは、低採算の製品販売の影響を受けた一方、電力会社向けシステム刷新案件が順調に進捗しています。また、系統用蓄電池を保有・運用する子会社「BIPROGY Energy Storage合同会社」を2026年6月に設立し、アグリゲーション事業に着手しました。本子会社で得た実運用データや知見を活用し、既存サービスの付加価値向上やさらなるサービス拡充を目指します。

モビリティでは、完全自動運転の実現を目指すTuring株式会社への出資を通して、自動運転サービスの社会実装を加速していきます。

2027年3月期第1四半期 注力領域（成長事業）の進捗

【注力領域(成長事業) 売上収益】

	2026年3月期 1Q	2027年3月期 1Q	前年同期比	2026年3月期 通期	2027年3月期 通期目標	前期比
市場開発	11	14	+2 (+21.3%)	52	100	+48 (+92.3%)
事業開発	6	9	+3 (+41.0%)	41	100	+59 (+144.1%)
グローバル	11	12	+1 (+7.1%)	51	150	+99 (+193.6%)
合計	29	34	+6 (+20.1%)	144	350	+206 (+143.0%)

市場開発：新たなサービス領域・シェアの獲得／拡大

- ・【データ&AI活用】AI適用の構想策定からAI開発・運用までの一貫支援サービス、複数顧客の共通業務の課題解決ソリューション提供を推進中
- ・【マネージドサービス】「GASSAI」の提供サービス拡充やグループ間連携による拡販により、案件獲得が順調に進捗

事業開発：社会DX事業の共創と展開の加速

- ・【地域創生】株式会社商工組合中央金庫との協業を通じ、中堅・中小企業向けDX支援案件の創出・獲得を推進中
- ・【スマートライフ】価値交換基盤「doreca」によるデジタル給与払いサービスの拡大に向けた取り組みを推進中
- ・【ヘルスケア】「カラダ測定サービス」を首都圏オフィスビルをはじめとする複数拠点にて開始。ヘルスケア事業の立ち上げを推進中
- ・【SX/GX】資源利用の最適化を見据えた、環境省の再生プラスチック安定供給事業に採択。当社を含む12社で実現可能性の検証に着手

グローバル：ASEAN主要国でのビジネスの展開と北米等マーケットへアプローチ強化

- ・ASEAN主要国における連結子会社のオーガニック成長とグループ会社間のシナジー創出を推進

続きまして、成長事業の進捗についてご説明します。

成長事業では、新たな収益基盤の確立と価値の提供を目指し、
「市場開発」「事業開発」「グローバル」の3つの領域を設定しています。

「市場開発」では、AI適用の構想策定からAI開発・運用までを一貫して支援するサービス、
および複数顧客の共通業務における課題解決ソリューションの提供を推進中です。
また、マネージドサービスでは、「GASSAI」の提供サービス拡充やグループ間連携による拡販により、
案件獲得が順調に進捗しています。
「事業開発」では、地域創生、スマートライフ、ヘルスケア、SX/GXの4つの領域で
社会課題解決に資する事業創出を進めております。
また、「グローバル」では、ASEAN主要国の連結子会社のオーガニック成長とグループ会社間のシナジー創出を推進しています。

2027年3月期は経営方針の最終年度にあたります。
目指す姿の実現と業績目標の達成に向けて、コア事業、成長事業ともに各注力領域の戦略を着実に推進してまいります。

1 2027年3月期第1四半期 業績

2 2027年3月期 業績予想

参考データ

最後に、2027年3月期の通期業績予想についてご説明します。

2027年3月期 通期業績予想 変更なし

- ✓ 活況なIT投資需要の継続により増収増益の見通し
- ✓ 注力領域を中心にさらなる成長を目指す

(単位:億円)

	2026年3月期 通期実績	2027年3月期 通期予想	前期比	
売上収益	4,337	4,700	+363	(+8.4%)
売上総利益	1,160	1,300	+140	(+12.1%)
販管費	△724	△816	△92	(+12.6%)
持分法による投資損益/その他の収益・費用	△10	0	+10	
営業利益	426	484	+58	(+13.6%)
(営業利益率)	(9.8%)	(10.3%)	(+0.5pt)	
親会社の所有者に帰属する 当期利益	312	322	+10	(+3.2%)
調整後営業利益*	436	484	+48	(+11.1%)
(調整後営業利益率)	(10.0%)	(10.3%)	(+0.3pt)	
(単位:円)				
1株当たり年間配当金	130	140	+10	(+7.7%)
中間配当金	60	70	+10	(+16.7%)
期末配当金	70	70	-	-
配当性向	(40.5%)	(42.0%)	(+1.5pt)	

*調整後営業利益 = 売上収益 - 売上原価 - 販売費及び一般管理費

第1四半期は、一過性の要因により通期業績予想に対して進捗が遅れておりますが、事業環境や受注残高の状況等を踏まえ、2027年3月期の通期業績予想は期初見通しから変更ございません。

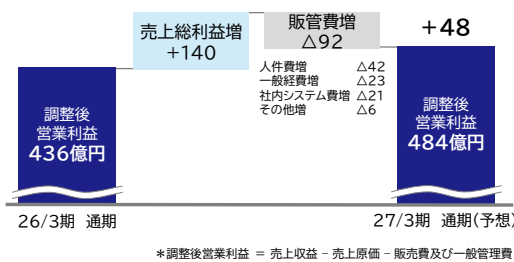
高水準の受注残高を着実に売上へと結び付けるとともに、お客様の旺盛なIT投資需要をさらに取り込み、受注・売上の拡大を図ることで、通期業績予想の達成を目指してまいります。

ご説明は以上となります。ご清聴ありがとうございました。

(参考) 2027年3月期 通期業績予想 増減分解 変更なし

【通期業績予想 セグメント別 売上収益／売上総利益(利益率)】 【通期業績予想 調整後営業利益*の増減分解】 (単位:億円)

	2026年3月期 (実績)		2027年3月期 (予想)		前期比	
	売上収益	売上総利益 (利益率)	売上収益	売上総利益 (利益率)	売上収益	売上総利益 (利益率)
システムサービス	1,408	511 (36.3%)	1,450	548 (37.8%)	+42 (+2.9%)	+37 (+7.2%) (+1.5pt)
サポートサービス	599	190 (31.6%)	630	203 (32.2%)	+31 (+5.1%)	+13 (+7.1%) (+0.6pt)
アウトソーシング	972	214 (22.0%)	1,140	283 (24.8%)	+168 (+17.2%)	+69 (+32.5%) (+2.9pt)
その他サービス	129	34 (26.2%)	130	35 (26.9%)	+1 (+0.4%)	+1 (+3.2%) (+0.7pt)
ソフトウェア	474	75 (15.9%)	490	76 (15.5%)	+16 (+3.3%)	+1 (+0.8%) (Δ0.4pt)
ハードウェア	753	136 (18.1%)	860	155 (18.0%)	+107 (+14.3%)	+19 (+13.7%) (Δ0.1pt)
合計	4,337	1,160 (26.7%)	4,700	1,300 (27.7%)	+363 (+8.4%)	+140 (+12.1%) (+0.9pt)



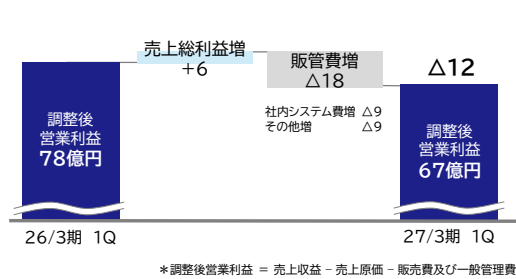
- 1 2027年3月期第1四半期 業績
- 2 2027年3月期 業績予想
- 参考データ

(参考) 2027年3月期第1四半期実績 増減分解

【セグメント別 売上収益／売上総利益(利益率)】

	2026年3月期 1Q		2027年3月期 1Q		前年同期比	
	売上収益	売上総利益 (利益率)	売上収益	売上総利益 (利益率)	売上収益	売上総利益 (利益率)
システムサービス	301	106 (35.3%)	312	114 (36.7%)	+11 (+3.6%)	+8 (+7.8%) (+1.4pt)
サポートサービス	142	45 (31.4%)	139	39 (28.4%)	△3 (△2.3%)	△5 (△11.7%) (△3.0pt)
アウトソーシング	232	42 (18.1%)	288	74 (25.6%)	+57 (+24.5%)	+32 (+76.0%) (+7.5pt)
その他サービス	28	7 (25.0%)	24	5 (20.5%)	△4 (△14.9%)	△2 (△30.2%) (△4.5pt)
ソフトウェア	116	11 (9.2%)	88	2 (1.9%)	△28 (△24.0%)	△9 (△84.6%) (△7.3pt)
ハードウェア	150	27 (18.3%)	64	10 (15.1%)	△86 (△57.5%)	△18 (△65.0%) (△3.2pt)
合計	968	238 (24.6%)	915	244 (26.7%)	△54 (△5.6%)	+6 (+2.5%) (+2.1pt)

【調整後営業利益*の増減分解】



(参考) ユニアデックス 2027年3月期第1四半期 業績概況

- ✓ AI関連やネットワーク関連のインフラ投資需要は活況な状況が継続しているものの、社内基幹システム刷新に起因する購買業務の遅延により第1四半期の売上予定が期ずれし減収減益

【経営成績】 連結会社相互間の内部取引を含む

	2026年3月期 1Q	2027年3月期 1Q	前年同期比
売上高	423	305	△118 (△27.9%)
売上総利益	86	61	△25 (△29.3%)
販管費	△45	△48	△3 (+5.6%)
営業利益	41	13	△28 (△67.8%)
(営業利益率)	(9.7%)	(4.3%)	(△5.3pt)

【セグメント別 売上高／売上総利益(利益率)】 連結会社相互間の内部取引を含む

	2026年3月期 1Q		2027年3月期 1Q		前年同期比	
	売上高	売上総利益 (利益率)	売上高	売上総利益 (利益率)	売上高	売上総利益 (利益率)
システムサービス	43	12 (27.7%)	37	11 (28.2%)	△6 (△13.8%)	△1 (△12.2%) (+0.5pt)
サポートサービス	111	27 (24.1%)	112	27 (23.8%)	+1 (+0.8%)	△0 (△0.7%) (△0.4pt)
アウトソーシング	66	11 (17.0%)	72	13 (17.5%)	+6 (+9.0%)	+1 (+12.1%) (+0.5pt)
その他サービス	25	5 (18.0%)	20	3 (13.8%)	△5 (△21.4%)	△2 (△39.6%) (△4.2pt)
ソフトウェア	62	10 (16.0%)	26	3 (11.9%)	△37 (△58.5%)	△7 (△69.2%) (△4.1pt)
ハードウェア	115	21 (18.7%)	38	5 (13.7%)	△77 (△66.9%)	△16 (△75.7%) (△4.9pt)
合計	423	86 (20.3%)	305	61 (19.9%)	△118 (△27.9%)	△25 (△29.3%) (△0.4pt)

※ 本ページの諸数値は日本基準に基づく



本資料に記載の会社名、商品名および商標は、各社の商標または登録商標です。

(注意)
本資料における将来予想に関する記述は、現時点での入手可能な情報による判断および仮定に基づいております。実際の結果は、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、予想と異なる可能性があり、当社グループとして、その確実性を保証するものではありません。また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。